

柏市地域包括支援センター事業評価のまとめ

センター	令和3年度 柏市地域包括支援センター事業評価の講評	令和4年度 柏市地域包括支援センター機能向上に向けた支援
柏北部	<ul style="list-style-type: none"> ・デスクカンファレンスや交流会等、介護支援専門員との意見交換の場を積極的に設け、ニーズの把握及び具体化につなげることができた。 ・住民参加が消極的な地区の課題を把握し、出張相談会を行うなど支援体制の構築ができた。 ・コロナ禍においてもオンラインを活用した独自の企画を実施し、交流の機会を創出することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の声を反映させた個別避難計画の作成を支援する。 ・日頃より認知症の方の支援内容をセンターや介護支援専門員等で共有し、緊急時にも迅速に対応できる体制が整うよう支援する。 ・コロナ禍でも高齢者の居場所が再開できるようフレイル予防を交えた運営支援体制が整うよう支援する。
柏北部第2	<ul style="list-style-type: none"> ・センターより働きかけを行い、介護保険サービス利用者の状態を改善させたほか、介護保険サービス卒業後も地域活動への参加につなげる等のフォローを行った。 ・前例がない複数の事業者に働きかけを行い、認知症サポーター講養成座を実施し、地域での認知症への理解をさらに深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防に取組む団体が立ち上がり、住民主体の活動ができる体制が構築されるよう支援する。 ・地域資源が反映された資源マップの作成を支援し、増加する独居高齢者等への支援に活用がなされるよう支援する。 ・オレンジフレンドが活動する場が増え認知症を支える地域づくりをさらに推進できるよう支援する。
北柏	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランチェックリストを独自に変更することで、ケアプランにインフォーマルサービスを高い割合で位置付けることができた。 ・虐待対応において、センター内で連携し、早期の終結につなげることができた。 ・地域の町会とオレンジフレンドとのマッチングを行い、地域の支え合いにつなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用したフレイル予防等の周知啓発を効果的に行えるよう支援するとともに、SNS活用の効果検証を行えるよう支援する。 ・高齢者自身のフレイル状態が改善するようなインフォーマルサービスをケアプランに取り入れられる体制が構築されるよう支援する。 ・認知症の介護家族に対し交流会の開催や認知症の知識向上の機会を設ける等の、孤立を予防する取組みを支援する。
北柏第2	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの働きかけにより、介護保険サービス利用者の状態改善につなげ、その後も地域活動への参加につなげた。 ・アルツハイマーデーに限らず、たすけあいサービスの団体や町会、老人会等で認知症啓発講座を行い、地域住民の理解を深めることができた。 ・認知症の方とのトラブルが多い金融機関に認知症サポーター養成講座開催の働きかけを行い、連携体制を築くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ支援を行ったサロンが住民主導で継続できる体制となるような取組みを支援する。 ・地域の広報誌等を活用したセンターの周知及び当該取組の効果検証を運営に活かせるよう支援する。 ・見守りの目が届かない高齢者の早期発見のため民生委員や地域住民と情報を積極的に共有する体制が構築されるよう支援する。
柏西口	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議にて積極的に地域住民と課題を検討した結果、自主活動グループが立ち上がり、社会資源の創設につなげることができた。 ・地域ニーズを把握した上で、ニーズに応じたフレイル予防講座を実施して地域住民のフレイル予防に継続的に取り組んだ。 ・オレンジフレンドとの協力の下、新たな事業所を認知症サポーター講座の参加へつなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもを対象とした認知症サポーター養成講座の開催等、認知症を幅広い世代への啓発を支援する。 ・休止中のサロンへ、ウォーキングやラジオ体操等気軽に参加ができる活動の提案ができるよう支援する。また新たなグループの立ち上げにつながるよう支援する。
柏西口第2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と積極的に現状の地域課題を共有して、現状に適した自主活動グループの創設につなげることができた。 ・セルフマネジメントの推進のために利用者へ積極的に多職種訪問事業の利用を働きかけた結果、利用者の状態改善・自立を達成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解が広がるように、認知症の方が参加できる場とそれを支える協力者を増やすための活動を支援する。 ・コロナ禍により休止しているサロン等への再開支援や交流機会の創出等、高齢者等がつながりをもつための取組みを支援する。
柏東口	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度から検討してきた地域課題に対する取組みを具体化し、地域での認知症に関する啓発を進めるとともに、オレンジフレンドの活動の機会を創出している。 ・地区の懇談会にて地域資源マップの掲載情報や相談内容等から見える地域特性について説明を行い、地域資源マップの活用や地域課題の抽出につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジベンチを中心とした認知症の普及啓発活動やオレンジフレンドによる支援活動をさらに拡大していけるよう取組みを支援する。 ・フレイル予防に特化したチラシの発行やサークル・サロンでの情報収集等、地域住民のフレイル予防の意識向上にうまくつながるよう支援する。 ・地域高齢者の社会参加の意識の向上のため、民生委員やサロン代表者と連携を取り高齢者の見守り強化ができるよう支援する。
柏東口第2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域分析を行った上で必要な対象へのアプローチを行い、自主グループの立ち上げやグループへの参加率の増加につなげることができた。 ・こども世代へ向けた認知症の啓発を対象に合わせた独自の方法で行い、理解を促すとともに、事業を通じて包括そのものの啓発にもつなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や事業への認知症サポーター養成講座等、昨年度に実施できなかった地域での認知症への理解につなげる活動が実現できるよう支援する。 ・地域と問題点の洗い出しを行い、休止中のサロン等の再開支援や新たな活動の場が立ち上げられるよう支援する。 ・包括の認知度向上に向けた周知活動やケアマネジャーへの情報交換が効果的に進められるよう支援する。
光ヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の欠員が続きながらも市内全域と比較しても多くの相談に丁寧に対応してきた。 ・対応するなかで、利用者の状態に合わせた提案を行う等、自立支援に向けた改善につながる取組みができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制の充足に合わせ、センターの各事業が目標に対して滞りなく運営できるよう支援する。 ・担当地域に合わせた認知症施策が展開できるよう支援する。
柏南部	<ul style="list-style-type: none"> ・寄せられた相談を分析することで見えた課題に対して、住民組織に働きかけを行い、社会資源の創設につなげることができた。 ・前年度の地域ケア推進圏域会議で議論した認知症者の見守り策を具体化させ、地域での見守り力向上に寄与できている。 ・利用者や関係機関からの相談に対して迅速かつ丁寧に対応し、高い満足度を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域分析に基づきターゲットを絞る等、効果的な居場所づくりが行えるよう支援する。 ・多世代を意識した認知症の啓発が進められるよう支援する。
柏南部第2	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェについて、オレンジフレンドへ積極的に働きかけ、初めての自主的なカフェ開催へつなげることができた。 また、認知症本人の希望に寄り添い、カフェのなかで役割をもってもらう等、満足度の高い活動を行うことができた。 ・地域の課題を捉え、関係機関の協力を仰ぎながら地域に講座参加を呼びかけ、自主グループの立ち上げにつなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの移転が円滑に行えるよう情報共有を図りながら事務を進めるとともに、移転後の周知活動を支援する。 ・センターが行う事業に係る情報発信が効果的に利用者へ届くよう取組みを支援する。
沼南	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携事業での事例検討を当事者だけでなく地域の介護支援専門員がともに学べる機会を提供することで地域全体の質向上を図ることができた。 ・担当エリアの多寡に関わらず地域支えあい推進員と積極的に協議を重ね、複数の社会資源の創設を実現した。 ・令和3年度最多の認知症サポーター養成講座を開催し地域に対して啓発しただけでなく、新たな学校での講座開催につなげる等、支援の幅を広げている。また、相談があった家族に対しても講座受講を積極的に働きかけ、個別支援としても成果をあげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域分析に基づき、担当地域それぞれに合わせたフレイル予防の取組みが行えるよう支援する。 ・地域における認知症の理解が進み、見守りの目が増えるよう取組みを支援する。